第５分科会

イスのサンケイホール鈴鹿



第５分科会

会 場　イスのサンケイホール鈴鹿

発表テーマと発表PTA

◆PTAによる地域活動　～ほだか会～　／岐阜県高山市立東山中学校PTA

◆150年の歴史を未来へつなぐ学校再編へのあゆみ
～地域・保護者・学校が一緒に考え進んだ道～
／三重県鈴鹿市立天栄小学校PTA

助　言　者

●鈴鹿市立栄小学校　校長　松本　博

講　演

◆生きてるだけで百点満点！　～しあわせを伝えよう～

講 演 講 師

●助産師　林　みち子

ＰＴＡによる地域活動
～ ほだか会 ～

岐阜県高山市立東山中学校ＰＴＡ
会　長　　小　川　善　行

１　はじめに

(1) 高山市及び学区

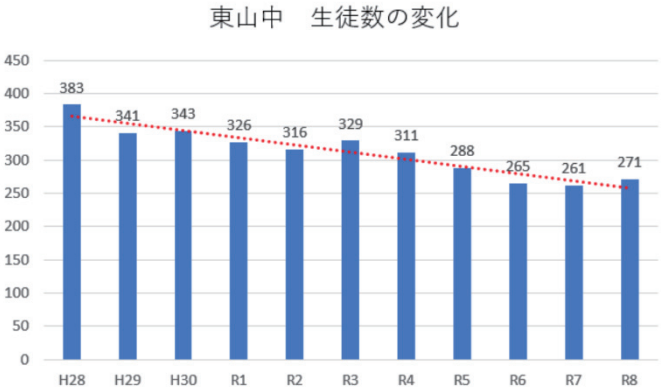
高山市は、岐阜県の北部に位置しており、日本一面積が広い市です。そのうち約９割が森林で占めており、東には北アルプスが連なり、乗鞍岳や新穂高ロープウェイなど、大自然を肌で感じることができます。人口は約８万人、３万７千世帯あり、中心市街には古い町並みと呼ばれる区域があります。そこには、国の伝統的建造物群保存地区に選定されており、江戸時代の面影を残す町並みが見られます。1600年半ばから続く高山祭は、日本三大美祭の１つに挙げられ、春は12台、秋は11台の屋台が行列となり鼓・鉦を打ち鳴らしながら巡行します。



校区は高山市の中心市街にあり、秋の八幡祭が行われる櫻山八幡宮を含めた場所です。大小39の町内から生徒は登校します。

(2) 高山市立東山中学校について

東山中学校は、今年、創立50周年を迎えます。昭和52年４月に現在の地に開校しました。それまであった大八中学校と岩滝中学校を統合し、その他２つの中学校の一部の生徒もあわせて、現在は４つの小学校から本校へ入学します。全校生徒は271名ですが、10年前と比べると100名程減っており、少子化の波を受けています。



開校時にできた校章は、３つのひらがなの「ひ」、東山中学校の「ひ」が集まっています。１つ目の「ひ」は生徒、２つ目は家族、３つ目は先生を意味します。生徒と家族と先生方が力を合わせ素晴らしい学校を創りあげる願いが込められています。



２　ＰＴＡの現状と今日的な課題を受けて

(1) ＰＴＡの現状

東山中学校ＰＴＡは、今年度の会員数が276名で加入率は100％です。また、組織及び役員・委員数は下の表の通りです。

本部役員	会長１、副会長２、書記１ 会計１、顧問１
常任委員	教養委員８、厚生環境委員８ 広報委員８、地区委員38 ほだか委員２
学級委員	３学年３学級９

今年度はスローガンを「紡ごう明るい笑顔と未来～50 年後もみんなの笑顔が続く

学校へ〜」としています。「紡ぐ」という言葉には、人の言葉や物語、歴史、思いなどを丁寧に繋ぎ合わせて作り上げるという意味があります。学校と家庭、地域社会が繋がる環境づくりや活動を行いたいと考えています。また、創立 50 周年の節目をよい機会に、関わる方々の想いを汲みながら生徒たちの明るい未来に繋がるような活動を行いたいと考えています。

(2) 今日的な課題を受けて

近年の社会構造の変化に伴い、高山市においても、少子高齢化による地域コミュニティの希薄化、保護者の多忙化等が進み、持続可能なＰＴＡの在り方こそ喫緊の課題と捉えています。そこで、ＰＴＡの組織や活動を見直しつつも、学校・ＰＴＡと地域が繋がり子どもを育てる仕組みの在り方を追求し続けてきました。

東山中学校ＰＴＡには、社会全体で繋がる仕組みの工夫の１つとして、ＰＴＡ役員ＯＢ会による協力体制があります。今回はこの取り組みを紹介させていただきます。

３　地域連携の具体

(1) 完全週 5 日制の実施に伴って

ほ＝ほかっといたら
だ＝だしかんさ（ダメだよ）
か＝かまって（かかわって）やらんと

ほだか会は、上記の願いを込め頭文字をとって名付けられました。きっかけは、平成 14 年度に始まった完全週 5 日制です。ゆとり教育を通して生きる力を育むために、ＰＴＡとして親子が共有できる時間と場の提供ができないかと考えたことがきっかけです。ＰＴＡ組織や取り組みを検討しながら、平成 22 年度からＰＴＡの１つの委員会としてほだか委員会を組織し、ほだか会が始まりました。親子・仲間と共に学ぶ、地域に愛着と誇りを持つ、様々な体験を通して自己の視野を広げるといった活動を行いました。

(2) ＰＴＡ役員ＯＢ会の協力

ほだか委員会の組織化と並行して、ほだか会などの行事を充実したものにするには、会員以外のサポート役が必要だろうと、ＰＴＡ役員ＯＢや地域の方々に声をかけ「ほだかサポートの会」という支援団体を組織してくださいました。この組織によって、地域の方との繋がりが密になり活動は充実したものとなりました。現在、ほだかサポートの会員は約 150 名で構成されています。

(3) ほだか会の変遷と繋がり

ほだか会の体験活動は、年度ごとに担当委員が活動を決め、実施してきました。



体験活動として、市内や近郊を観光した年もあります。飛騨市神岡町のレールマウンテンバイク体験や上高地での自然散策などもしてきました。年によっては、川魚つかみや、そば打ち、ピザづくりなどの体験を重視した活動も実施してきました。





サポートの会の方々には、様々な職種の方々がみえ、自分たちにできることを協力していただいています。事前準備では、物品の仕入れ先や施設との連絡調整などを、当日ではチェックポイントでの見届けなどをご協力いただきました。このように様々な活動を実施してきました。

ここ数年は、市内ウォークラリーとバーベキューが持続可能な取り組みだと考え実施しています。



ウォークラリーは古い町並みを含めた市街地にチェックポイントを設け、クイズを解きながら回ります。ほだか委員が生徒に市内や校区のどこを見せたいかのかを検討して準備を進めます。サポートの会の方々には、仕入れ先を教えていただいたり、ウォークラリーの裏側でバーベキューの設置や火起こし、ウォークラリーのスライドショー編集をしていただいたりしています。





活動後の生徒の感想の一部を紹介します。

> ほだか会でウォークラリーとＢＢＱをしました。ウォークラリーはチームで協力することができて楽しかったです。ＢＢＱではみんなと話をしながら楽しめました。この会はＰＴＡや先生、ほだかサポートの会の人のおかげなので、感謝の気持ちをもってすごしたいです。

このように、会のねらいである、共に学んだり自己の視野を広げたりできたことについてはもちろん、会をサポートしてくださった方への感謝を述べる生徒が多くいました。このことは、地域の方との関わりから生徒と地域の方との心の繋がりが読み取れ、好事例になったと捉えています。

(4) 餅つきの会と繋がり

ほだか会以外にも、毎年、冬休みに入る前日に伝統的な文化を体験させたいと、餅つきの会を開催しています。体育館に８つの臼を置いて学級ごとに餅をつきます。

事前準備として、ほだか委員が材料などを調達したり、ＰＴＡ会員をクラス割りしたりして準備を進めますが、サポートの会の方の中には、杵のメンテナンスができる方や、大根を提供してくださる方、餅を返すのが得手な方、鏡餅を作るのが得手な方などがおり、ほだか委員やＰＴＡ会員も教えていただきながら会に協力できる体制が整っています。親子で文化を学び体験できる機会になっています。



集団になじめず別室で学習している生徒も餅つきをやってみたいと言い、時間をずらして挑戦しました。サポートの会の方が杵に手を添えてこつを教えてくださりながら、何度も餅をつくことができました。地域の人とふれあい、体験ができたことはその生徒の一生の財産になったと思います。



４　地域への繋がり

（1）学校行事での繋がり

東山中学校では、「地域と共にある学校」を学校のミッションとして掲げて教育活動を進めています。地域では、防災やつながりづくりを進めていますが、参加人数の減少や高齢化の課題もあり、中学生との協働的な取り組みをしたいと願ってみえます。

ＰＴＡとしても、ほだかサポートの会などで培ってきた地域とのつながりをさらに強固なものにしたいと願っています。そのため、地域と協働する学校行事「郷土の未来を語る会」を始めました。この行事は、12 月頃に各町内会やまちづくり協議会で生徒と大人が輪になって、持続可能な郷土を作るための話し合いを行うものです。





令和 7 年度は、生徒が町内会やまちづくり協議会の行事に事前に参加し、郷土の未来を語る会当日は、次年度に協働してみたいことを話し合いました。事前に参加した行事は、川掃除や夏祭りのブース運営、防災訓練、通学路点検など様々でしたが、生徒は 12 月までにそれぞれの地域行事に参加しました。



郷土の未来を語る会当日は、ＰＴＡとして、地区委員や本部役員などが働きかけ、できる限り参加するようにしました。会を終えた参加者からは、「生徒が地域行事に積極的に参加すると、まちづくりの活性化に繋がる」というご意見を多くいただきました。さらに、今年度の春に行われた学校運営協議会においても、生徒と協働した活動こそ充実させたいというご意見をいただきました。

まちづくり協議会主催の夏祭りに参加した生徒代表のレポートには、次年度夏祭りを行うときに改善するとよいことなどの意見はもちろんのこと、「地域の人と関わり、協力してより良い地域・暮らしを目指すことが地域とともに歩むこと」であるとまとめられていました。ＰＴＡ活動を活用して、学校と地域が繋がることは、持続可能なＰＴＡの在り方にとても有効です。さらに、生徒が地域から学ぶことは、次世代の社会の造り手を育てていくことに繋がると感じています。

５　おわりに

東山中学校ＰＴＡが大切にしてきた地域との繋がりは、生徒にどんな人に育ってほしいかを話し合う中で今の体制ができてきました。地域コミュニティの希薄化が社会問題になっていますが、ＰＴＡ役員ＯＢや地域の方々が子どもを気にかけてくださるこの地域ならば、今後も問題解決のチャンスがあると捉えています。そして、地域との繋がりを大切にした活動を仕組むことで、生徒に感謝の気持ちが育ったり、次世代の社会を創ろうという気持ちが育ったりすることが分かり、繋がって学ぶことは重要なことだと捉えています。

今後も、持続可能なＰＴＡの在り方を求めていきたいと考えています。今回紹介させていただいた通り、学校とＰＴＡと地域が繋がり、三者のウエルビーイングを保ちながら生徒を育てていきたいと考えています。

『150年の歴史を未来へつなぐ学校再編へのあゆみ』
～ 地域・保護者・学校が一緒に考え進んだ道 ～

三重県鈴鹿市立天栄小学校ＰＴＡ
（旧鈴鹿市立合川小学校令和5・6・7年度ＰＴＡ会長）
宮﨑　奈緒子

1　はじめに

(1) 地域の紹介

旧合川小学校は鈴鹿市の南西部に位置し、自然豊かな山に囲まれ、北側には中ノ川が流れています。多くの庭園を造り日本の禅文化に大きな影響を与えたとされる偉人『夢窓国師』の誕生地でもあり、学校周辺には夢窓国師の産湯の井戸や誕生霊地碑も残されています。また、鈴鹿市はスポーツも盛んでサッカー選手の三浦知良さんが所属していたサッカーチーム『アトレチコ鈴鹿』や、日本ラグビーの最高峰で活躍している『ホンダヒート』の元本拠地でもあり、選手と触れ合うことができる出前授業も盛んでした。



(2) 学校の紹介

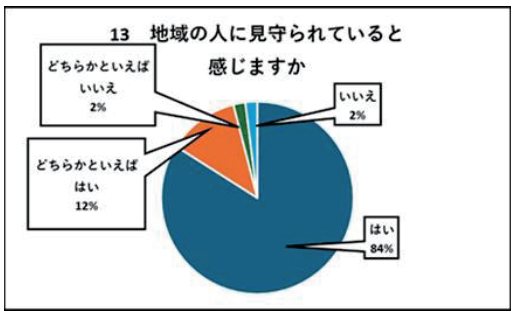
明治８年 11 月 19 日に三宅村、徳居村、長法寺村連合の三宅学校として設立。昭和 22 年合川村立合川小学校となり、昭和 29 年 8 月鈴鹿市との合併により鈴鹿市立合川小学校と改称されました。過去には 400 人を超える児童が在籍していましたが、少子化の進行に伴い、複式学級が見込まれる状況となりました。そのような状況を受け、平成 27 年度から 4 年間、文部科学大臣より教育課程特例校の指定を受け、4 年生以上に英語教育を取り入れました。また、平成 27 年度から 3 年間三重県教育委員会から「小学校における英語コミュニケーション力向上事業」の指定を受け、レゴブロックやフォニックス教材を取り入れた英語の授業が行われました。平成 27 年 4 月には鈴鹿市初の『小規模特認校』の指定を受け、校区外からも通学ができるようになると、一時期は児童数の 1/4 が校区外から通う程、制度の利用者も増えつつありました。しかし、平成 31 年度より全ての公立小学校で英語教育が始まると特認校制度の利用者はしだいに減少していきました。令和５年に学校再編による近隣３校の再編が決定。令和６年度には鈴鹿市初の複式学級の発生により、小規模校から過小規模校となりました。閉校の年となった令和７年度の児童生徒数は 59 人（うち特認校制度利用者は 11 人）となり、創立 150 年目の節目の年に学校再編の為、閉校となりました。



2　本校の取り組み

(1) 地域と共に進める教育

合川小学校では、まち探検や米作り体験活動などは地域の方々に支えられた活動となっていました。『夢窓国師』の学習では講師を招き、合川の歴史を深く学び英語のパンフレットにまとめ、修学旅行先で外国人の方に配るという体験学習も行っていました。また、登下校の見守り、学習ボランティア、環境ボランティアなど多くの保護者や地域の方々から協力を受け、除草作業などのＰＴＡ行事においても自治会の力添えがあり充実した活動となっていました。さらに、地域では様々な行事が催され、『ボッチャ体験会』や『いきいきスポーツデー』などには子どもからお年寄りまで大勢が参加し、楽しんでいました。このような取り組みのおかげで学校アンケートの『地域の人に見守られていると感じますか』の問いに対して 96％の児童が肯定的な回答をしています。

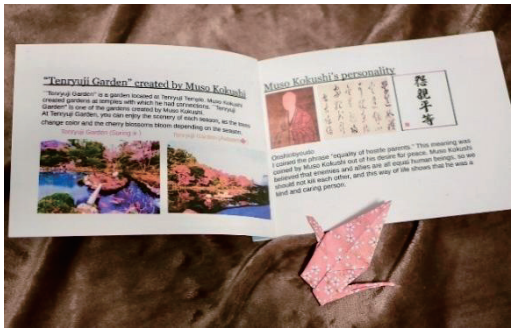




（5 年生が中心となって行う米作り活動）



（夢想国師について学ぶ）



（英語のパンフレットを作成）



（修学旅行にてパンフレット配付）



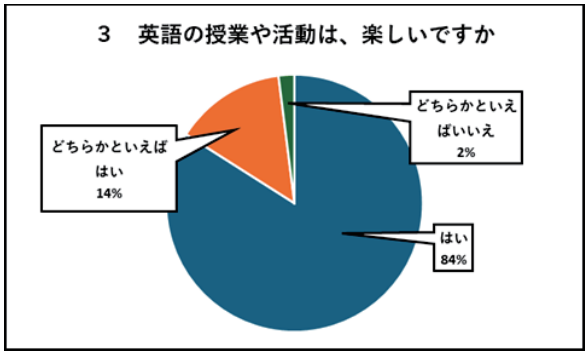
（地域行事：いきいきスポーツデー）

(2) 少人数によるきめ細やかな教育

合川小学校では少人数の良さを生かし、児童同士が密に関わる縦割り班活動など、様々な経験や体験を大切にしながら子ども同士の絆づくりを大切にしてきました。全教職員が児童の情報共有に努め、学年を超えた関わりがもてたのは合川小学校ならではです。

(3) 特色のある英語教育

平成 27 年度から 4 年間、国の教育課程特例校の指定を受け、4 年生で週 2 コマ、5，6 年生で週 3 コマ授業を行っていました。また、平成 27 年度から 3 年間は県からの指定を受けて 3 年生でも隔週 1 コマ英語学習を取り入れていました。平成 31 年度の学習指導要領の改訂により全ての公立小学校で外国語活動が実施されるようになって以降も、学校裁量の時間に英語に親しむことを目的としたイングリッシュタイムを設けたり全学年でモーニングイングリッシュを実施したり、英語活動発表をするなどして楽しく英語に親しむことができる環境を整えてきました。その結果、児童アンケートでも『英語の授業は楽しいですか』の問いに対して 98%の児童が肯定的な回答をしています。



３　ＰＴＡ活動

(1) パッと楽しく集まろう！ＰＴＡ

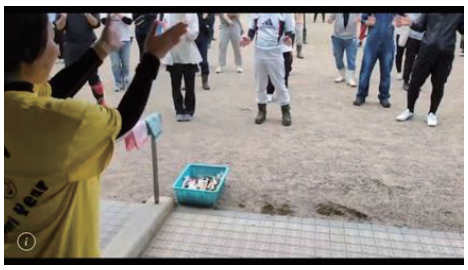
旧合川小ＰＴＡは、本部役員４名（会長、副会長、書記、会計各１名）と、地区委員８名を選出。本部役員の会長は『広報委員長』、副会長は『家庭教育学級長』、会計は『生活部長』を兼任し、計 12 名で構成。ＰＴＡの主な活動は、登校の見守り・除草作業・広報紙発行・家庭教育学級の開催・運動会の共同主催などです。

令和５年度からは合言葉として『Ｐ（ぱっと）Ｔ（楽しく）Ａ（集まろう）ＰＴＡ』を行事ごとに使ってきました。そして同時に始めたのが一丁締め。この言葉と行動には笑顔を生み、やる気を高め団結力が生まれる効果がありました。夏の暑い日の除草作業は体力気力ともに厳しい活動になりますが、合言葉で場も和み最後お礼と労いの意味を込めた一丁締めをすることによって次の活動への活力につながると保護者・地域の方に好評でした。

令和 6 年度からは学校再編による各部会（総務部会・ＰＴＡ部会・通学安全部会・代表者会）の委員となり、教育委員会との連携を図りました。会長は、その他に年間６回開催する鈴鹿型コミュニティスクール学校運営協議会の副委員長として、教職員代表者および自治会等の代表者と連携し、より良い学校運営の実現に向けて活動を行いました。また、学校長と共に地域の４つの団体（社会福祉協議会、青少年健全育成町民会議、公民館運営委員会、公民館体育委員会）に在籍し、地域活動にも積極的に参加をしていました。

(2) 地域に愛されるＰＴＡ

自然豊かな学校の環境を整える為には除草作業が欠かせません。合川小学校では年３回の除草作業を行います。年々減り続ける世帯数、保護者だけでは刈りきれない所を地域の方にご協力を頂いていました。学校・保護者・地域と連携し、主体的に参加する事が当たり前となっている校風はこれまでの良好な連携の歴史が伺える感動的な取り組みです。『こころは一つに子どもたちのため』最後の除草作業の際には地域の方から「もう一丁締めも出来なくなるんだね、寂しいな」とお声かけ頂くほど愛していただきました。最後の運動会では役員が仮装し、校庭にいる全ての方を対象に一つの大きな輪を作る競技を行いました。まずは児童・先生方でグループを作り、ルールが分かってきた頃に子ども達に地域、保護者の方を呼びに行ってもらうスタイルで進めた結果、たくさんの方にスムーズに参加していただくことができました。学校・保護者・地域をつなぐ架け橋となり、その輪を活かし、合川地区伝統の【夢想音頭】へとつなぎ、みなさんに楽しんで頂きました。



（除草作業後の一丁締め）



（ＰＴＡ競技）



（運動会にて夢窓音頭）

４　学校再編

(1) 学校再編までの道

鈴鹿市が目指す適正規模の考え方は、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨するために一定規模の集団が確保される状態であり、その規模は、小学校で 12 学級から 24 学級まで、中学校では９学級から 24 学級までとされています。学校の規模が 5 学級以下の過少規模校または 31 学級以上の過大規模校となる場合には直ちに保護者・地域も交えて検討され、将来的に過少規模が見込まれる学校については統廃合の適否も考慮し、過少規模校が見込まれる年度の 5 年前を目途に保護者や地域に説明をするとされています。（※天栄中学校区における学校再編計画書より抜粋）

この手順に基づき、令和 2 年に合川・天名・郡山小学校区に「あり方検討委員会」が立ち上がり、8 月に「第一回　合川小学校の今後のあり方検討会議」が行われ、令和３年

1 月までに計 7 回実施。そのほか小学校の保護者に向けた意見交換会やこれから合川小学校に通う未就学児の保護者向けの意見交換会も行われ、この年に合川は学校再編に賛成しますという意思表示をします。

令和 4 年 4 月には地域からの要望で「天名小学校・合川小学校の今後のあり方検討合同会議」が行われ、その後、保護者に向けた学校運営協議会での意見交換会、校区外から合川小学校に通う保護者に向けた勉強会や各自治会での意見交換会なども合わせて 8 回行われています。しかし、参加者からは「十分に説明されていない」といった声が上がり再編への理解は少なく、反対意見の方が多く上がっていたように感じました。2 月に合川小ＰＴＡより在校生の保護者に向けた「合川小学校のあり方」に関するアンケートを実施、その結果を教育委員会へ提出し受理されました。翌月の年度末には「あり方検討委員会」が解散。令和 5 年度 9 月には「天栄中学校区における学校再編計画（素案）」に係る説明会が行われ、各地域から激しい反論が飛び交う説明会となりました。

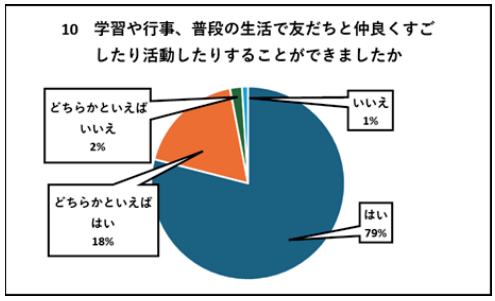
(2) ＰＴＡの立ち位置

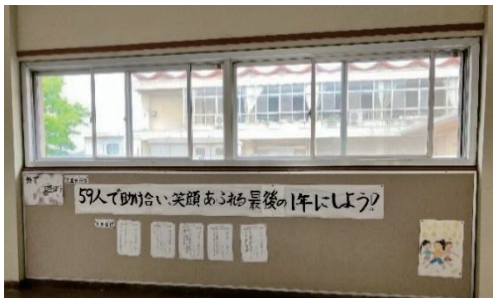
学校再編に向けて動き出した教育委員会と地域の地元への愛が溢れて生じる反対意見。その間に挟まれる形となってしまった PTA。令和 5 年に学校再編の話が具体的に動き出したとき、私たち PTA は初めて「当事者」として向き合うことになりました。行政の示す適正規模の方針と地域や保護者が抱く学校への想い。その間に立ちどう伝えどうつなぐのかがＰＴＡの役割だと感じていました。しかし、しだいに良くない噂話も聞こえてくるようになり、その矛先がＰＴＡに飛び火、厳しい口調で責め立てられる事もあり、精神状態を保つ事が難しい状況にまで追い詰められました。

そして、何度も臨時役員会を開き、「子どもたちの為に必要なことは何か」「地域との連携はどうか」などを話し合いました。同じ境遇にある天名小学校・郡山小学校の会長さんとも情報共有を行い、鈴鹿市ＰＴＡ連合会や教育委員会にも相談しました。再編に関する説明会が開かれていない事によって情報発信源でもない PTA が矢面に立っている状況などを涙ながらに訴えた事もあります。

ＰＴＡは意見をまとめる立場ではなく、様々な立場の人が意見を出す場を守る立場だと考えました。すぐに答えを出すことよりも、話し合いを続けることを選んだことが結果として理解と信頼につながったと感じています。

学校再編の動きが本格化し、再編の準備として各学年での 3 校交流会や 3 校合同社会見学を実施し、子ども同士の交流を深め、心のサポートにつなげてもらえたことは保護者としてもとてもありがたい事でした。その後令和 7 年度の児童会のスローガンに挙げられたのが『59 人で助け合い、笑顔あふれる最後の１年にしよう！』でした。その言葉通り、クラス・縦割り班活動・運動会では笑顔が満開、子どもたちがお互いに支え合う姿がよく目立ち、合川小学校での生活を存分に楽しんでいるように感じました。児童アンケートでも友だちと仲良くすごせたかの問いに97%の児童が肯定的な回答をしています。





（令和 7 年度児童会スローガン）

５　まとめ

『こころは一つに子どもたちのため』大人が笑えば子も笑う、大人が楽しめば子も楽しむ。つながりを大切にすれば絆も深まる。小さな学校だからできた密なコミュニケーション。本実践から得た学びは学校再編という大きなテーマであっても、対話の積み重ねが人と人との信頼をつなぐということです。PTA は調整役ではなく、「つなぎ役」として関わることで地域・学校・行政のそれぞれの声を未来へ届けることができると思います。

今年度からスタートした天栄小学校でも３校それぞれの経験とそこから胸に刻んだ様々な思いを大切にしながら、積極的に話し合う場やコミュニケーションを交わす場をもち、学校と連携することで子ども達のより良い環境づくりに繋げていけるといいなと思います。